

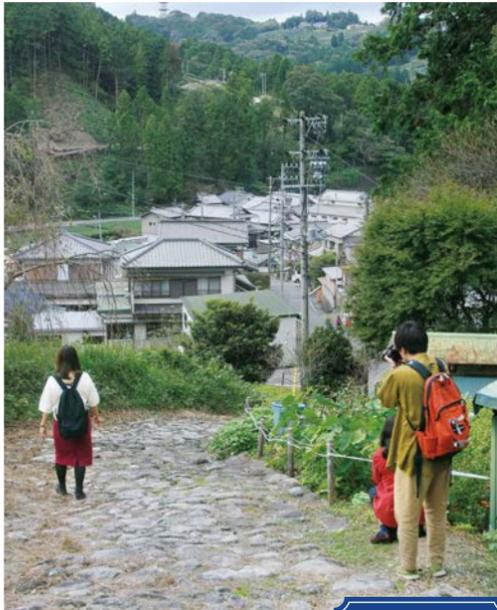
東海道五十三次を往く

第20回

日坂宿

東海道三大難所 小夜の中山を越えて

その道程の険しさから、箱根峠、鈴鹿峠に並ぶ東海道三大難所の一つに数えられた中山峠（小夜の中山）。その急坂は、広重の描く浮世絵にも描かれている。日坂宿は、鎌倉時代の「夫木和歌抄」にもその名が残る歴史ある宿場だが、天保14（1843）年の記録によれば、本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠33軒と、規模は小さなものであった。当時の建物や史跡が大切に保管されているので、歴史を感じつつ歩きたい。



菊川坂石畳

石畳の菊川坂を下ると、菊川の町並みを望むことができる。前後を急坂に挟まれているが、宿場内は舗装された緩やかな道が続く。

間の宿 菊川



夜泣石跡

浮世絵の中、急坂の半ばに描かれているのが夜泣石。その昔、臨月を迎えたお石が山賊に襲われ、命を落としながらも子を産み、子を慕う霊魂が石に宿ったとの伝説が残る。ここには石碑のみがあり、本物と伝わる石は、県道（旧国道1号）沿いの小泉屋脇と久延寺境内にある。



久延寺と夜泣石（小石姫供養塔）

奈良時代の行基が開祖と伝わる寺。夜泣石の伝説にまつわる子育て観音としても知られる。境内には、夜泣石と同じ形の供養塔も。



日坂宿の町並み

およそ6町半（約700m）の宿場に、復元された常夜燈などが並ぶ。建物や跡地には木札に記された屋号が。写真左手は元旅籠の澤屋跡。

壁一面に描かれた大きな町割り図



金谷宿と日坂宿の間は1里24町（約6.5km）と短い、難所の中山峠と大井川に挟まれた地ゆえに、旅人を休ませる間の宿が設置された。



佐夜鹿一里塚

江戸日本橋を基点として、一里ごとの里程を示すために設けられた一里塚。この一里塚には、五十二里、五十四里、五十六里の諸説がある。

おみやげ

宝永年間創業。久延寺周辺で唯一営業を続けている老舗茶屋。夜泣き石伝説にちなんだ「子育て飴」は、大麦ともち米だけで丁寧に手作り。店頭では、割りばしに巻き付けて販売（1本100円）しており、甘すぎず、素朴な味わいが広がる。お土産用に容器入（1個600円）とキャンディー（1袋300円）もあり。

趣ある店先でひと休み



元祖 扇屋

静岡県掛川市佐夜鹿299
☎0537-27-1474（土・日・祝のみ）
☎土・日・祝 10時～16時（変動あり）
休 平日



名物 子育て飴 1個600円



日坂宿本陣跡（扇屋）

日坂宿唯一の本陣の屋号は扇屋。約220坪の建物があったが、寛永5（1852）年の大火で全焼し、その後再建されたという。



旅籠屋 川坂屋

比較的身分の高い武士が利用した旅籠。精巧な木組みや職人技が光る格子など、江戸時代の面影を残す建物をゆっくりと見て回ることができる。



高札場跡（下木戸の高札場）

法令や禁令を広く知らせるため板札に書いて掲げた高札場。日坂宿では正徳元（1711）年、相伝寺敷地内に立てられたという。現存するのは、「高さ二間・長二間・横七尺」という江戸時代の記録に基づき再建されたもの。

ことのまま 事任八幡宮

創立年代未詳だが、古くは大同2（807）年の記録にも名が残る歴史ある社。徳川幕府の信仰を受け、社殿の改築なども行われた。

